

国語科学習指導案

指導者



1 日 時 平成22年

2 学年・組 第3学年

3 指導事項（単元の目標）

(1) 「C読むこと」 エ

○ 「夏草—『おくのほそ道』から—」を読み、人間、社会、自然などについて考えること。

(2) [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] ア(ア)

○ 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界観に親しむこと。

4 単元名 古典を楽しむ 「夏草—『おくのほそ道』から—」

5 単元の目標を達成させるための言語活動

現代語訳や脚注、視聴覚資料を参考にしながら古文を読み、ワークシートにまとめること。

6 単元の評価規準(目標を達成したときの子どもの姿)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">○ 暗唱や音読に意欲をもって、取り組みようとしている。○ 作者の思いをとらえ、人間、社会、自然などについて考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none">○ 作者の「旅」に対する思いや、自然に対する人間の営みのはかなさを読み取っている。	<ul style="list-style-type: none">○ 奥州藤原氏や源義経等について、『おくのほそ道』の時代背景を知ることを通して、芭蕉の描いた作品の世界を、より実感的にとらえている。

7 単元に関して

○ 生徒の状況

・ 「古典への関心・意欲・態度」について

音読や暗唱は意欲的に取り組む生徒が比較的多い。一方で、古典というだけで拒否反応を示し、「古典は難しい」、「古典はおもしろくない」と感じる生徒もいる。

・ 「読む能力」について

古典に関していうと、時代背景や、難解な語句、通釈などが理解できず、学習を放棄してしまう生徒が○名程度いる。古典への興味・関心・意欲を高める指導を工夫する必要がある。また、文学的な文章を読む能力に関しては、全国学力調査で全国平均を下回っている。作者や登場人物の思いをとらえることに関して、展開に即して読み取ることや、いくつかの場面を関連づけながら読み取ることが苦手である。作者の思いをとらえて、考えをめぐらすことが苦手である。全国学力調査の結果を見ても、自分の考えは書けているが、提示された資料を踏まえて自分の考えをまとめられた生徒は約半数である。発表となると、ほとんどの生徒が消極的な態度を示す傾向がある。

・ 「言語に関する知識・理解・技能」について

奥州藤原氏や源義経等については、第2学年までの既習事項であるが、『おくのほそ道』と関連付けた学習はしていない。

○ 教材の価値

・ 「古典を楽しむ」ことについて(「古典への関心・意欲・態度」について)

「古典を楽しむ」とは、まず古文独特のリズムを味わいながら音読することから始まると考える。冒頭部は和漢混淆文と対句の流れるような文体であり、古文のリズムを楽しむのに適した教材である。すらすらと音読できることが古典に対する興味につながり、内容への関心を引き出すことになる。

次に、「古典を楽しむ」とは、現代世界にはない昔の人のものの考え方に触れ、新たな発見をし、古典の世界

や昔の人への想像を駆り立てられたり、あるいは現代人にも共感できる人々の思いやものの見方など、時代を超えた普遍的な価値に触れることにあると考える。芭蕉の「旅」に対する思いや、自然に対するものの見方・考え方、人生観などは、ある部分では芭蕉ならではのものであり、ある部分では現代人にも共感できるものである。

・ 「読む能力」について

冒頭部も「平泉」の段も、構成をとらえやすく、現代文と同じように読ませることが可能な教材である。

冒頭部では、芭蕉の旅への考えと、旅に出ずにはいられない熱い思いが凝縮されている。

「平泉」の段では、人間の営みのはかなさが、藤原三代の栄華の跡や義経主従の戦いの跡を眺めることによって掘り起こされ、「夏草や～」の俳句に集約されている。時代背景を知ることを通して、涙を落とした芭蕉の心情に迫ることができる。様々に想像をめぐらし、人間の営みのはかなさを読み取ることのできる教材である。

8 児童・生徒の状況と教材の価値を勘案した単元の目標を達成させるための指導の工夫

- 「古典への関心・意欲・態度」を涵養するための指導の工夫点
 - ・ 導入時に、芭蕉や『おくのほそ道』に関する内容をクイズ形式で確認する。
 - ・ 様々な方法で音読に繰り返し取り組む。
- 「読む能力」を高めるための指導の工夫点
 - ・ ICTを活用し、図や写真、ビデオの視聴覚資料を拡大し、焦点化して見せる。
 - ・ 現代語訳を付した取り組みやすいプリント教材を用意する。

9 単元の学習と評価の計画(全6時間)

次	時	学 習 活 動	評価の観点			評価規準[評価方法]
			意欲・態度 国語への関心・	読む能力	知識・理解・技能 言語についての	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「おくのほそ道」について、歴史的背景を理解し、旅程図を概観する。 ・ 冒頭部を音読する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で交流しながら、クイズに取り組んでいる。 ・ 歴史的仮名遣いやリズムに注意しながら音読している。 [行動観察]
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冒頭部の原文を音読する。 ・ 現代語訳と対照させながら、原文の内容をとらえる。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代語訳を参考にしながら、冒頭部分の内容をとらえている。 [ワークシート・発言]
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冒頭部分に述べられている芭蕉の「旅への思い」について考える。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成をとらえ、芭蕉の人生観や旅に対する思いをとらえている。 [ワークシート・発言]
三	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奥州藤原氏や平泉の歴史、源義経の悲劇になどについて、歴史的背景を理解する。 ・ 「平泉」の段を音読する。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平泉の歴史的背景を理解している。 ・ 歴史的仮名遣いやリズムに注意しながら音読している。 [行動観察]
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夏草や～」の俳句に込められた芭蕉の思いを読み取る。 <p style="text-align: center;">本 時</p>		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 芭蕉の心情を自分の言葉でまとめ、感想をまとめている。 [ワークシート・話し合い]
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「光堂」の一節を読み、芭蕉の思いを読み取る。 ・ 「平泉」の段全体を通しての芭蕉の思いをまとめ、それに対する自分の考えをもつ。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 芭蕉が光堂に感動した理由をまとめ、感想をまとめている。 [ワークシート]

10 本時の目標

- 芭蕉が平泉において何を見、何を感じたのか、心情を読み取ることができる。

11 本時の目標を達成するための言語活動

- 地の文と俳句を関連付けながら、涙を流した芭蕉の心情について話し合うこと。

12 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価基準[評価方法]
確認 意欲付け	1 前時の学習内容を確認し、本時の学習課題を知る。 ① 「平泉」の段を音読する。 ② 本時の学習課題を知る。	○ ペアで音読し、確認させる。	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「夏草や～」の俳句に込められた芭蕉の思いを読み取ろう。</p> </div>			
展開	2 現代語訳を読み、大まかな内容を確認する。 ① プリントの現代語訳を読む。 ② 眼前の情景と芭蕉の想像した場面構成をとらえる。 ③ 目にすることができるものを確認し、地図と照らし合わせる。 3 「夏草や～」の俳句に込められた芭蕉の思いを読み取る。 ① 「兵ども」とは誰をさしているのかを、本文中から探し出す。 ② 「兵どもが夢」とはどんな夢かを、考える。 ③ 話し合った内容を発表する。 ④ 「泪を落とし侍りぬ」思いに迫る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芭蕉は平泉でまず高館に登ったことを確認する。 ・ 小グループで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Cの生徒に対するてだて 芭蕉が、義経らの悲劇を思い起こし、眼前の風景を眺めていることをとらえさせ、自分であれば、何を感じるか、考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み取りには幅をもたせ、歴史的な事柄は必要に応じて補足する。 	<p>A: 自然に対して人間の行為のはかなさを感じた芭蕉の思いと、現代に生きる自分たちの生活とを比較し、「似ているところがある」、または、「違ってるところがある」など、具体例を示しながら表現している。</p> <p>B: いつまでもそこにある自然に対して、栄えた者もいつかは衰えるという武士社会における人間の行為のはかなさを感じて涙している芭蕉について、感想を表現している。 [ワークシート・話し合い]</p>
日常化 一般化	4 学習を振り返り、芭蕉の心情が読み取れたかをワークシートに記入する。		